

協会だより

第48号

2020.9.1

発行

(公社)北海道農産基金協会

〒060-0004 札幌市中央区北4西1-1 共済ビル5F
TEL011-232-6560 FAX011-232-1016
ホームページ www.nousan-kikin.or.jp/

北海道澱粉工業協会

〒060-0004 札幌市中央区北4西1-1 共済ビル5F
TEL011-232-6554 FAX011-222-1794

新役員ご紹介（プロフィール）

両協会の改選により、下記のとおり就任いたしましたので、新役員を紹介いたします。



北海道澱粉工業協会

会長理事 篠原 末治

昭和三十六年
五月二十五日生

平成三十年 札幌町農業協同組合 代表理事組合長

令和二年 札幌町農業協同組合 会長理事（現在）

令和二年 北海道農業協同組合中央会 理事（現在）

令和二年 ホクレン農業協同組合連合会 代表理事会長（現在）

令和元年 (公社)北海道馬鈴しょ生産安定基金協会 理事

令和元年 北海道澱粉工業協会 監事

令和二年 北海道澱粉工業協会 会長理事（昇任）



(公社)北海道農産基金協会

副理事長 村木 秀雄

昭和二十五年
十二月十一日生

平成二十年 いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長

令和二年 いわみざわ農業協同組合 会長理事（現在）

平成二十二年 北海道厚生農業協同組合連合会 理事

平成二十九年 北海道農業協同組合中央会 理事

平成二十六年 ホクレン農業協同組合連合会 理事

令和二年 ホクレン農業協同組合連合会 代表理事副会長（現在）

巻頭言

本年四月一日より、公益社団法人である北海道馬鈴しょ生産安定基金協会は、北海道青果物価格安定基金協会とともに吸収合併消滅法人となり、北海道豆類価格安定基金協会を存続法人とする「公益社団法人北海道農産基金協会」という新たな法人となりました。

私は、専務理事を仰せつかりました五十嵐と申します。

新公益社団法人の役員体制は、理事十六人、監事一人で、理事長は北海道中央会の小野寺会長、副理事長はホクレンの村木副会長が就任し、専務理事一名、常務理事二名体制で、組織規模の拡大に伴い新たに会計監査人も置きます。

今回の組織統合では、各団体が実施している現行の事業を当面継続するほか、会員や経費負担なども基本的にはこれまでと同様とする内容で、事務所も現在ワンフロア化している共済ビル五階をレイアウト変更してそのまま使っております。

しかしながら、今後に向け、業務の効率化・合理化をさらに進め、既存事業の検証や事業管理費の削減を図り、各品目全体や品目横断的な総合性のある事業展開、新たな課題に積極的な役割を果たす組織を目指していくこととなります。

馬鈴しょにつきましては、「事業部」内の馬鈴しょ関係事業として引き続き業務を行います。

また、今後とも北海道澱粉工業協会と連携をいたしながら馬鈴しょおよび馬鈴しょでん粉のための事業を進めてまいりたいと存じます。

さて、今年の前半は、新型コロナウイルスの猛威により、我々の生活を一変させるような状況となりました。

皆様の周りも大きな変化があるかと思えますし、この号が発刊されるころに収束に向かっているのかどうかとも予断を許しません。

当協会においても、新体制になったものの、本年度前半の行事等で中止、延期せざるを得なかったものもございいます。

一刻も早く通常に戻ることを願いつつも、今は社会的配慮をしながらの業務が必要であると考えております。

しかしながら、当協会の「馬鈴しょ研究助成事業」など主要な事業につきましては、本年度も予定に従って取り進めております。

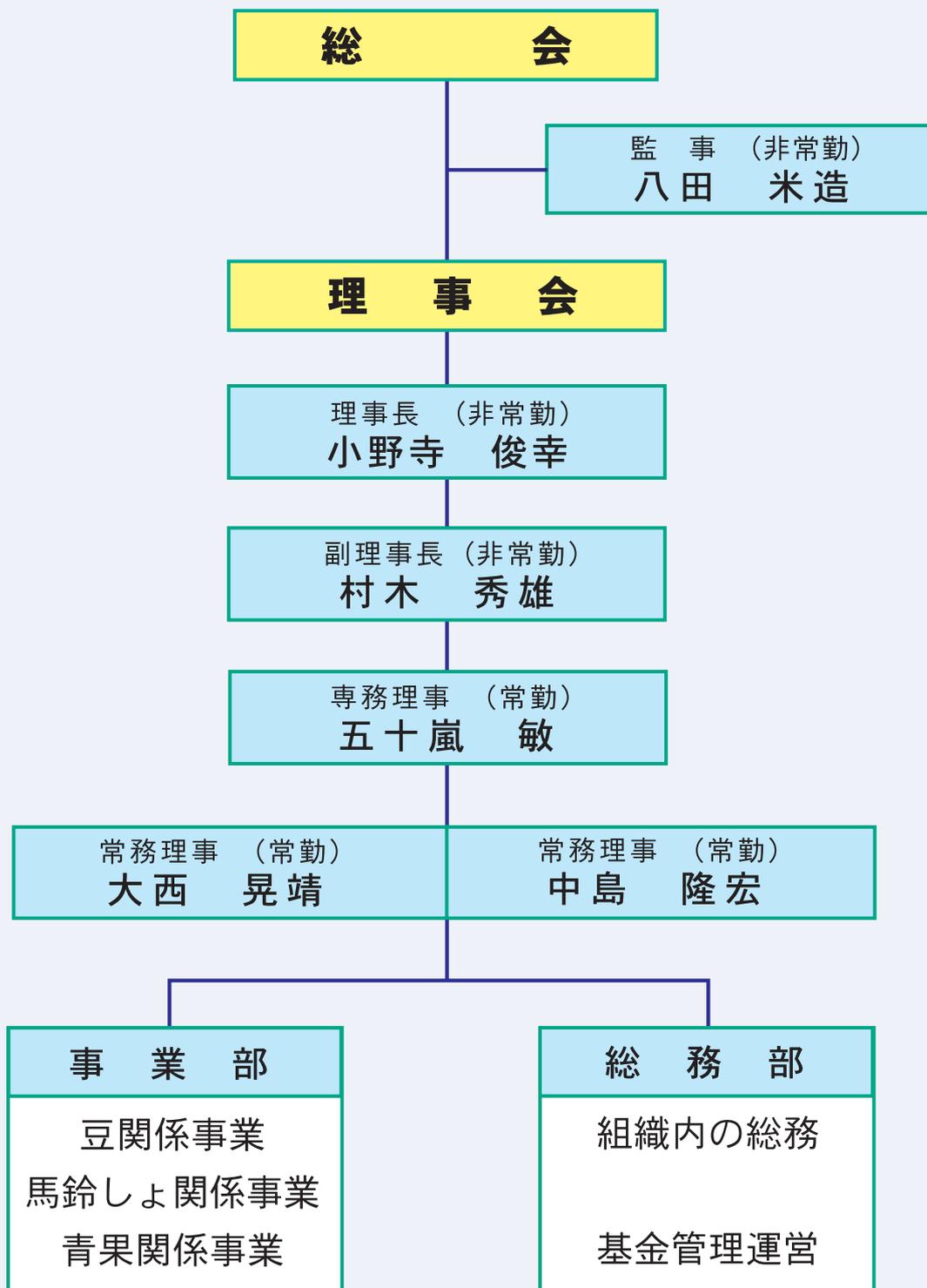
皆様にはご心配をおかけしますが、今後ともよろしく願っています。

(公社)北海道農産基金協会 専務理事 五十嵐 敏

新しい組織機構

公益社団法人 北海道農産基金協会

法規定上、「総会」「理事」「理事会」「監事」は必置機関。
負債総額50億円以上の公益法人は「会計監査人」を設置。



原料・技術 NEWS

北海道立総合研究機構
中央農業試験場病虫部
予察診断グループ
主査 山名利一(としかず)さん(45)

馬鈴しょやでん粉生産には多くの人が関わっています。育種や防除研究の川上からユーズー、消費者に至る川下まで、途切れることなく繋がっています。それぞれの分野で存分に力を発揮する人の輪が幾重にも広がって、北の大地の恵みを生み出しているのです。そこで、今回は馬鈴しょやでん粉生産を支えている第一線研究者にフォーカスしてみました。

大阪生まれ、札幌育ちの山名さんは、旭丘高校を卒業後、北海道大学農学部と同大学院農学研究科で植物に感染するウイルスの研究に携わり、修士課程修了後に本州の調味料関係の食品会社に就職。四年後、二十七歳で北海道に戻ることにになり道の職員試験を受験。当時、北海道立



料理好きの一面も持つ山名さん

総合研究機構は地方独立行政法人になっていなかっただけで、受験では行政職と研究職を選択できなかった。「研究者として四年間のブランクがあり、日進月歩の発展がある研究分野だったので行政職でも構わないと受験しましたが、運良く研究職に就くことができました」と山名さんは振り返る。

ウイルス系統判別法を確立

最初の赴任地は、北見農業試験場(常呂郡訓子府町)。主に小麦と玉ねぎに発生する病害の抵抗性を評価する研究などに携わってきた。研究成果の一つに、秋まき小麦の雪腐病に関する効果的な薬剤散布法の開発がある。「根雪になる直前に薬剤散布をしなければ効果的な予防にはならないのですが、これまでは熟練の

生産者の経験に頼ることが多かった。それを一定の条件で散布すれば誰でも予防できる方法を開発しました」と山名さん。熟練生産者の経験とノウハウを、データを駆使して客観化、経験の少ない生産者でも対応できるようになり、小麦の収量アップに貢献することができた。

北見農試で十一年間務めた後、平成二十六年に中央農業試験場(夕張郡長沼町)に赴任。現在は、病虫部予察診断グループ主査として診断システムの研究を中心に取り組んでいる。馬鈴しょとの関わりは中央農試に来てからで、馬鈴しょ圃場での病害虫の発生状況を観察、生産者に対して策や注意を促す仕事のほか生産者の圃場で発生した病害の診断などを行っており、それに伴って新しい診断法の研究も行っている。

その一つが、ジャガイモYウイルスの各系統について判別する方法の開発がある。平成二十九年年度から令和元年度までの研究の中には、ジャガイモYウイルスの中で塊茎部分に壊疽症状を起こすウイルス系統の判別法を確立した。「迅速な診断方法を開発することができましたが、開発の途中で北海道ではジャガイモYウイルスが引き起こす塊茎部分の壊疽がほとんどないことが分かりました。道内は種イモ更新率が高く、圃場のウイルス発生割合も低い。道内の種イモ管理の厳格さが改めて私たちの研究成果から浮かび上がってきた

ました」と山名さんは話す。

AI利用の診断法開発に着手

AIや最新の通信技術を利用した診断方法の開発も指向している。「医師が患者の画像や症状のデータを遠隔で見ても病気を特定することができるようになっていきますが、私たちも画像やデータを使い、迅速に正確に馬鈴しょなど作物の疫病を診断・判別できる技術の開発を進めていきたい」と山名さんは胸を張る。

研究者として十七年目になるが、研究の面白さは仮説が答えと一致した時にあるという。「研究課題を立てる時に、『こうやったらうまくいくのではないか』とか、『こういう理由があるからこうなっている』などと自分の中で仮説を立てます。その仮説に沿って試験を繰り返して答えを導くわけですが、仮説の筋道通りに成果が出た時はやっていて良かったと感じます」(山名さん)。

夫人も中央農試の研究者で作物の研究をしている。その夫人との間に三人の子どもがいる。休日には子育てに奮闘、「子供たちが自転車に乗り始めたばかりなので、目が離せません」と山名さんは目を細める。朝食は山名さんが作り、子どもたちは玉子焼きを美味しく食べているという。料理は手慣れたもので和食なら煮物が得意。料理の腕は夫人より上という見立てに、「それぞれ得意料理が違いますから」と切り返した。

工場ニュース 工場長紹介

上川北部農協
合理化澱粉工場
工場長

大條 秀隆 さん(56)

ISO重視の工場運営心がける

―略歴を。

大條 土別市出身で土別商業高等学校を卒業後、自動車整備士として働いていました。平成三年に自動車関連部門を希望して土別市農協(現北びびき農協)に入組しましたが、人手が足りなかったライスセンターに配属、以来二十六年間そこで勤めました。それから、倉庫課に異動し令和二年五月一日付で工場長に就任しました。

―でん粉との関わりは。

大條 工場長に就任するまで、この工場については殆ど知りませんでしたし、でん粉との関わりもありませんでした。初めてのことがばかりで、多くの申請書類の提出など職務をこなすのも大変です。工場もライスセンターの機械類とまるつきり違っていて水の配管もたくさんあることに驚きました。

―就任の抱負は。

大條 前任の森工場長代理は、私が入社と同時に倉庫課に在籍し

ていたところの上司。その上司は、澱粉工場の管理委員も務められていたので、工場のことを良く知っていた。工場長代理時代は完璧に仕事をこなしている人でした。その上司を目標に工場を運営したい。また、現在の大内副工場長は平成八年より在籍しておりでん粉製造のベテラン。この地域にはなければならぬ工場として二人三脚で対応したい。

―工場長として初の操業です。

大條 ISOの認証取得も進めて



おり、無事取得してISOを重視した工場運営を臨時職員含めて心掛けたい。また、来年は北びびき農協から若手職員を派遣してもらい工場の技術を承継していく環境を整えたい。

―趣味は。

大條 バイクです。今は七台目のカワサキ「ZX-10」に乗っています。この間は幌加内まで走って蕎麦畑を見てきました。若い時ほど体力がないので五時間乗るのが精いっぱいですよ(笑)。

工場ニュース 工場長紹介

ようてい農業協同組合
販売事業本部
課長兼澱粉工場長

多田 雅彦 さん(55)

地域になくはない工場

―略歴を。

多田 京極町生まれで喜茂別高校札幌大学卒業後にトヨタ部品共販に勤め、バブル期にキャタピラー三菱に転職して重機を販売していました。バブルに翳りが見えてきたこともあって、地元に戻ろうと平成四年、倶知安農協(現ようてい農協)に入りました。管理や共済、営農を経て平成二十三年に京極支所営農販売課長、営農推進センター長、今年五月に本所農産課長の兼務として澱粉工場長に就任しました。

―澱粉工場の位置づけは。

多田 昭和四十年代くらいまではでん粉専用品種が作付けされていて、そのころに真狩に澱粉工場が建てられました。食用馬鈴しよに移行したので現在は、その規格外品が原料になっています。この工場がなければ組合員は規格外の処分困ってしまいます。産地で獲れた馬鈴しよを、全て組合員の収入につなげていく意味では必要不可欠な工場です。

―操業期は何人で対応しますか。
多田 正職員三人、期間雇用十二人ほどで操業に入りますが、今年はリゾートで働いていた二人も期間雇用します。コロナの影響による労働市場の変化がこの地域にも顕著に及んでいることを実感します。

―工場長として初の操業ですね。

多田 事故なく安全に操業することと近隣住民に迷惑をかけないよう心掛けたい。喫緊の課題はISO22000認証取得。昨年の前バージョン取得に次ぎ、二年連続の認証



となり事務量も膨大になります。認証を取得して安全で清潔な環境で安心な食品を作る工場として意識改革を徹底したい。

―趣味は。

多田 バイクが趣味で、ヤマハSRX400とTZR250の二台を使い分け、ツーリング途中でグルメを楽しむインスタにあげています。座右の銘は、『この道より我を生かす道なし この道を歩く』。自分に言い聞かせています。

工場ニュース 工場長紹介

士幌町農業協同組合
農工部次長兼澱粉課長
澱粉工場長
高橋 勇司 さん(55)

時代の变化に応じた工場に

—略歴を。

高橋 美唄市生まれで旭川高専卒業後に横浜の旭硝子に入り、半導体のガラス基板の製造技術に十年間携わりました。山形の液晶基板工場の立ち上げを含め五年間勤務した後、三十五歳で土幌農協澱粉工場に転職しました。子育てのためには北海道が良いと考えたことや転勤が多い職場だったため、北海道に戻ることにしたのです。土幌の場所すら知らずに来て、旧工場の操業期には多くの臨時工が働くなど、昭和的な環境に少し戸惑いました。一年後に現在の工場の稼働が始まり、コンピュータ制御での人の数も減り、増毛や留萌から臨時工の人たちも来なくなっていました。

—工場の課題は何でしょうか。

高橋 でん粉原料用馬鈴しよの作付面積が少なくなっており、工場の稼働率も低下傾向です。この工場が竣工した二〇〇一年には十四万トンの原料を処理しましたが、現在は八万

トンを切る状態。個人的には、でん粉に付加価値を付けて高く売る方法を考えていかなければならないと思います。耐熱性でん粉は、その一つですがまだまだ流通量が少ない。時代の変化に応じて私たちも変わっていかなければいけないと思います。

—コロナ対策は。

高橋 昼夜二交代、一直五人ほどなので工場内部は基本的に密を回避できると思います。職員には、基本的な行動を守って感染防止の意識を高めてもらいたいですね。



—工場職員に期待することは。

高橋 目標を持って計画を立てて業務に取り組む習慣を身に付けてもらいたい。チャレンジできる環境を整え、様々な提案ができるようになるのは私の仕事でもあります。成り行きを受け入れたり、流されたりしてはいけません。

—趣味は。

高橋 特にありません。あつ、仕事と書いてもらってもいいですよ(笑)。

工場ニュース 工場長紹介

清里町農業協同組合
営農部製造課
課長・工場長
山賀 仁志 さん(59)

緊張感を持って操業に臨む

—略歴を。

山賀 小清水町出身で離農した両親とともに斜里町に移り住み、斜里高校卒業後に清里町農協に入組しました。最初は農畜産課で馬鈴しよの出荷割当なども行いました。二年目からガソリンスタンドに十二年間勤務、それから業務課に異動し、操業期は麦乾センターで務めたほか肥料、農薬、資材も扱っていました。平成二十三年にでん粉工場に移り、でん粉の包装や製品管理を担当、三年前に調査役、今年四月に工場長に就任しました。

—工場長就任の抱負を。

山賀 安心、安全で良品質なでん粉を製造したい。今年はコロナの影響で大変な操業になると思います。増毛や留萌、地元から季節工員が来ますから、感染対策を徹底した操業と寮の中でも密にならないように注意したい。操業は九月一日からです。不安は大きいですが、緊張感を今まで以上に感じています。

工場を一つにまとめていくことが大きな役割でもありますが、普段から職員に話しかけるなどコミュニケーションを取りたいと思います。

—工場職員に望むことは。

山賀 工場の職員は十人います。製造部門は機械の保守点検・整備などもありますから、あまり異動がありませんので、中堅職員が多く、職員にはどんなことでも良いので何か一つ目標を持って操業を迎えて欲しいですね。



—今年の工場の設備投資は。

山賀 馬鈴しよの洗浄工程に異物除去装置を導入します。今までは、原料に混在する石や木材等の除去を手で行っていましたが、機械化することで省力化が図れます。

—趣味は。

山賀 夏はパークゴルフ、冬はスキーです。スキーは年に五、六回、旭川方面へ車で約四時間かけて滑りに行きます。パークゴルフもスキーも女房と一緒に楽しんでいます。

研究開発最前線

ジャガイモ乾腐病を起こす
新規のフザリウム属菌

九州では、ジャガイモ栽培は春作および秋作の二回行うのが一般的です。近年、長崎県で問題となっていた、秋作に多く発生する種いもの腐敗による欠株症状について、それを引き起こす植物病原糸状菌が明らかになりました（Osawara, ジャーナル・オブ・ジェネラル・プラント・パソロジー誌 八六、二〇二〇年、印刷中）。

萌芽が見られない所から掘り出した腐敗塊茎の切断面は、白色の菌糸に覆われており、フザリウム属菌に特徴的な三日月型の大型分生子が、多数観察されました。病原性が確認されたのは、次の三種のフザリウム属菌、フザリウム・コミユネ（Fc）、フザリウム・アキユミナタム（Fa）およびフザリウム・オキシスポラム（Fo）です。病名は、塊茎の症状などから「ジャガイモ乾腐病」とされ、FcとFaは、いずれ新規の病原として日本植物病名目録に加えられるでしょう。

Fcは、森林苗畑における米松など針葉樹の根腐れ・立枯れや、ダイズの立枯れ・種子腐敗・根腐れおよびトマトの根部ならびに冠部の腐敗などの原因菌としての報告がありますが、乾腐病菌としては世界初の報告です。Fcは、Foに近縁な姉妹種であり、両種は系統的に同一と見られた時期もありました（Skovgaard, マイコギア誌九五、二〇〇三年、六三〇―六三六）。この分類学的事実と、腐敗塊茎を採取した圃場に海外から種いも

あるいは土壌の移入履歴が見当たらないことを考え合わせると、この菌は以前から土着していた可能性が高いと考えられます。

Foは、大正三年（一九一四年）に乾腐病の原因菌のひとつとして報告されています。しかし、近年分類的に種複合体として扱われるFoについては、系統学的知見に基づいた種名の新設・変更が提案されています（Lombard, ペルスニア誌四三、二〇一九年、一四七）。因みにこの基準に照らすと、今回長崎から分離されたFo三菌株は、それぞれ別種になるようです。Fcの例のように、将来、乾腐病菌の一種とされている既報のFoが、新たな種として再命名されることも考えられます。なお、Faは、諸外国では既に乾腐病菌として報告があります。日本では初めての報告となります。ところで、本稿で取り上げたOsawara（二〇二〇年）が分離、同定したFc菌株の興味深い特性が紹介されました（Masimbuira, バイオサイエンス・バイオテクノロジー・アンド・バイオケミストリー誌八三、二〇一九年、一六五〇―一六五四）。この論文では、Fc菌糸体に揮発性のジャスモン酸メチルを処理することにより、菌糸体中に供与したジャスモン酸メチルが取り込まれ、ジャスモン酸に代謝され蓄積すること、さらに、菌糸細胞内では新規にジャスモン酸が合成されることも確認されました。

ジャスモン酸メチルは、植物による様々な種類の防御化学物質の生産を誘導し、空気を通じて拡散することで、周りの損傷を受けていない植物に防御反応を引き起こすことが知られています（いわゆる、「植物の悲鳴物質」のひとつ）。また、ジャスモン酸は、植物ホルモン様物質のひとつであり、ジャガイモにおいては、塊茎形成を引き起こす作用が知られています。

Fcのほかに、Foを含むいくつかの植物病原糸状菌がジャスモン酸を生合成しますが、その生産の意義については次のように説明されています。すなわち、「このような病原菌（筆者注：Foのこと）に感染すると、サリチル酸欠乏によって全身誘導抵抗性が制限される。感染植物におけるサリチル酸生合成の抑制は、病原菌から分泌されるジャスモン酸によって引き起こされるのだが、病原菌の植物への感染によって好都合である」云々。

サリチル酸は、病原菌に対する植物の抵抗性を誘導する物質ですが、その生産に対してジャスモン酸が拮抗的に作用することが知られています。Fcも、このようなサリチル酸の生合成抑制機構により、感染に有利な状況を築いているのかもしれない。

（北海道大学

北方生物圏フィールド科学センター

教授 近藤則夫

新型コロナ 一人ひとりが できる予防策

北海道農業団体
健康保険組合

保健師 高松陽子さん
管理栄養士 松本伸子さん

新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。収束時期がなかなか見えない中、一人ひとりができる予防策を徹底することも大切です。そこで、北海道農業団体健康保険組合お二人に感染予防と免疫力を上げる食事について聞きましました。

「新型コロナウイルス感染症に備えて」

新型コロナウイルス感染症（正式名称COVID-19）の感染拡大を防ぐための対策として、手をこまめに清潔にすることが大切です。石鹸を使って流水で手を洗うのが有効とされています。外出先や仕事中など、手洗いがしにくい時も、こまめに使える手指消毒用アルコールを常備できるとよいですね。帰宅時だけでなく、飲食の前やトイレの後、多数の人が使うものに触れた時なども行いましょう。



松本伸子さん



高松陽子さん



正しい手の洗い方

手洗い
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう

感染症対策 へのご協力を お願いします

自分や他人の目・鼻・口には、なるべく触らないようにすべきですが、どうしても触れてしまう時は、前後で必ず手洗いをしましょう。マスクを使うことは、他の人へのウイルスの拡散を防ぐのに役立ちます。しかし、マスクだけで完全に防ぐことはできません。具合が悪い時や、発熱、咳などの症状がある時は、仕事を休んで自宅にすることが大切です。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

免疫力を上げる食事

免疫力は体内で作られるものです。身体をつくらしているのは食事です。毎日の食事から必要な栄養をとって、新型コロナウイルスに負けない免疫力をつけましょう。

免疫力を上げる食事のポイント

- ①良質のたんぱく質・たんぱく質は筋肉や血液、ホルモン、免疫細胞を構成
 - 魚類・肉類・大豆食品（納豆、豆腐など）・卵
 - 貝類（あさり、しじみ、かき、ホタテなど）
- ②発酵食品と食物繊維
 - 腸内では、善玉菌が腸内環境を整えて免疫細胞の働きを促進する。乳酸菌など発酵食品や食物繊維をとって、腸内の善玉菌をふやすことが大切
 - ヨーグルト・納豆・キムチ・甘酒（米麹・酒粕）
 - 味噌・ごぼう・おから・筍・りんご・豆類
- ③ビタミンA・粘膜を強くして喉や鼻腔をガード
 - 人参・かぼちゃ・ほうれん草・小松菜・にら
- ④ビタミンC・D・Eなどで免疫力を活性化
 - ブロッコリー・ピーマン・きゅうり・じゃが芋
 - みかん・いちご・柿・キウイフルーツ・アボカド
 - 玉ねぎ・にんにく・ナッツ類・モスク・わかめ
 - きのこ類・魚類（鮭・マグロ・サンマ・うなぎ）

免疫力を上げる生活 五か条

- 一、栄養バランスのよい食事
- 二、睡眠と休息（規則正しい生活）
- 三、適度な運動
- 四、清潔（手洗いやうがい・入浴）
- 五、前向きな気持ち・笑顔

北海道農産基金協会が総会開催

公益社団法人北海道農産基金協会の令和二年度通常総会が六月二四日開催されました。

四月一日に統合した新団体の初めての総会でしたが、新型コロナウイルスの影響により、委任状、議決権行使書による参加がほとんどで、本人出席は限られた人数での開催となりました。

議案は、旧団体の平成三十一年度の事業報告と役員の補欠選任であり、馬鈴しょ・豆類・青果物それぞれの事業について審議されました。

馬鈴しょ事業につきましては、当該年度の馬鈴しょ作付面積は、四万九千六百畝で前年を千二百畝下回りました。用途別の作付比率は、推定で生食・加工用六〇％、でん粉用三〇％、種子用一〇％となり、特に生食用の作付面積が大きく減少しました。十ヶ当たりの収量は三千八百十キログラム(前年比一一一％)で、収穫量は百八十九万ト(同一〇八％)と前年産を上回る結果となりました。でん粉原料処理量は八十二万二千ト(同一一〇％)、馬鈴しょでん粉生産量は十七万八千ト(同一〇五％)の見込みで、前年度より八千二百ト上回る結果となりそうです。

研究助成事業として、馬鈴しょの安定生産を目的とした品種改良及び病害虫対策の開発に向けて、公募による助成事業を実施しました。「馬

鈴しょの農業形質に関連したDNAマーカー探索と有効性検証」(北海道立総合研究機構中央農業試験場)、「馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の開発促進」(北海道立総合研究機構北見農業試験場)、「DNAマーカーを用いたでん粉原料用馬鈴しょの効率の育種法の開発」(帯広畜産大学)、「健全馬鈴しょ生産のためのジャガイモ黒あし病菌の高精度診断法の開発と実証」(農研機構北海道農業研究センター)など、対象事業は十三課題、事業費は二千七百五十七万七千九百六十六円でした。

普及啓発事業として、毎年二月に開催している「馬鈴しょ栽培講習会」の帯広・網走開催は、新型コロナウイルスの感染拡大による道の緊急事態宣言発出で、中止となりました。また、事業検討委員会も三月に予定されていた第三回が中止となりました。

次に、貸借対照表など財務諸表について報告があり、監査報告の後に満場一致で議案は可決されました。役員の補欠選任については、辞任に伴い理事五人の選任が承されました。(その後理事会において村木理事が副理事長就任)

工場長会議開催、「未来プロジェクト」でパレット輸送・保管の試験報告

北海道澁粉工業協会は八月十二日、旭川市のJA上川ビル会議室で澁粉工場長会議を開催しました。系統澁粉工場など二十五人が出席しました。最初に、ホ



JA上川ビルで行われた工場長会議

クレン担当者から令和元でん粉年度の需給状況などが報告された後、各工場長から地域の馬鈴しょ作付面積の推移や作況、十工場の澁粉生産量合計は約十六万三千トの計画が発表されましたが、作況について、「大玉傾向で玉数が少なくライマン価も低い」(土幌)、「大玉傾向だが玉数は平年並み」(美幌)、「前年よりライマン価が高い

傾向」(小清水)、「萌芽不良などでバラツキが大きく収量は前年よりやや減る」(上川)などと報告され、下方修正の懸念がある状況です。また、各工場ともに働き方改革を導入、操業期間中に休日を組み込む取り組みや原料受け入れ時間を短縮するなど対応することが報告されました。

工場長会議の後、第五回でん粉未来プロジェクトが同じメンバーで行われ、美幌農工連と土幌町農協が行ったでん粉製品のパレット輸送・保管の試験結果などが報告されました。土幌町農協が実施したコンテナ輸送では荷崩れを起こし、「現状ではゴールが見えない」という意見が出たほか、美幌農工連と清里町農協からは、「紙袋二十キログラムが二十五キログラムにアップが二十五キログラムか、原点に戻って考え方を整理しては」と提案がありました。保管効率が重要の中、各工場でも四段階積み保管試験の取組みを行うことも決まりました。

編集後記

今年度は新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、未だ収束は見えていない状況です。そのような状況の中、二月二十六日、二十七日に開催予定であった第二十七回馬鈴しょ栽培講習会も、残念ながら急遽中止せざるを得なく、参加予定の皆様、講師他関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいた

します。また、澁粉工場対象の工場長研修、職員研修及び澁粉研修会も全て中止となり、知見を広げる機会が減ってしまいました。来年の開催内容の充実に向け情報収集等行なって参ります。

今度も協会だよりの紙面充実のため皆様より引き続きご意見・ご要望を賜りたいと思っております。宜しくお願いいたします。